

【薬学部アドミッション・ポリシー（AP）】

東邦大学薬学部が育成したい人材

東邦大学薬学部は、本学の建学の精神である「自然・生命・人間」を礎に、「自然に対する畏敬の念を持ち、生命の尊厳を自覚し、かけがえのない自然と人間を守るための、豊かな人間性と均衡のとれた知識と技能を有する人材を育成する」という教育の理念に基づき、「心の温かい薬の専門家」として、自他ともに高め合い、医療の最前線で他職種とともに患者や生活者の立場に立って人々の健康を守り、高い倫理観と豊かな人間性を持って地域はもとより広く社会に貢献する医療人の育成を教育の目標に掲げています。

このような人材は、薬学の基礎と臨床に関する正確で幅広い専門知識・技能・技術をバランスよく持ち、自主的に問題を解決する能力を兼ね備えている必要があります。また、薬学を専門とする医療人として社会に貢献したいという強い信念と情熱を持ち続ける姿勢も求められます。

期待する入学者像

東邦大学薬学部は、本学の教育の理念に共感し、本学部の教育の目標に十分な理解を示すことができる以下のような資質・能力・意欲を有する人の入学を歓迎します。

（基礎学力・知識）

1. 入学後の薬学的知識や考え方の修得に必要な基礎学力を有している。

（探究心・目的意識・意欲）

2. 自然や生命のさまざまな現象に興味を持ち、それらを説明する基本原理や法則を理解する能力を有している。
3. 薬学・医療に高い関心を持ち、将来的にこれに関連する分野に貢献したいという目的意識を有している。
4. 入学後も継続的に自己学習・自己研鑽を行う強い意欲がある。

（コミュニケーション）

5. 周囲の人との良好な関係を構築するために必要なコミュニケーション能力を有している。
6. 外国語の学習に積極的な姿勢で取り組み、国外で発信された情報の収集や分析、異文化コミュニケーションの実践に興味を持って取り組む意欲を有している。

選抜方法の趣旨

薬学部では、一般入試のほか、センター試験入試、一般・センター試験併用型入試、同窓生子女入試（A0方式）、指定校制推薦入試、公募制推薦入試、社会人入試、編入学試験（2年次編入）を実施し、多様で特色のある背景を持つ人材の受け入れを目指しています。また、本学部の入学試験では、適性検査、教科筆記試験、大学入試センター試験、調査書、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

○一般入試

化学・数学・英語の試験を行い、入学後の修学に必要な基礎知識や考え方が体系的に身についているか、それらに関連づけて解を導く力がどの程度養われているかなどを評価します。このうち、化学では、原子の成り立ちや化学結合の基本的概念を理解し、これに基づいて化合物の物性や化学的性質を考察できる力が身についているかを評価します。数学では、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に考察して表現する力が身についているかを評価します。英語では、基本的

な英文読解力が定着し、情報や考え方の要点を理解し的確に伝えることができる力（コミュニケーション能力）が身についているかを評価します。

○センター試験入試

大学入試センター試験において、本学部が指定した教科・科目の評点に基づき、高等学校段階における基礎的な学習の達成程度が入学後の修学に必要な学力に達しているかを評価します。

○一般・センター試験併用型入試

化学は一般入試の成績に基づいて、原子の成り立ちや化学結合の基本的概念の理解から化合物の物性や化学的性質を考察できる力が十分に備わっているかを評価します。英語・数学はセンター試験の評点に基づいて、高等学校段階における基礎的な学習の達成程度が入学後の修学に必要な学力に達しているかを評価します。

○同窓生子女入試（A0方式）

化学・数学・英語の適性検査を行い、入学後の修学に必要な最低限の基礎知識や考え方が定着しているかを評価します。志望理由書の審査や面接では、本学の建学の精神や教育の理念、本学部の教育の目標に深い理解と共感を示し、薬学関連分野への貢献という目的意識に裏打ちされた継続的で能動的な学習意欲を有しているか、他者との良好な関係を構築するコミュニケーション能力を有しているかなどを評価します。このほか、調査書の記載内容に基づき、基礎学力や語学力が身についていること、向学心や実行力を有していることなどを確認します。

○指定校制推薦入試

本学部が指定した高等学校の学校長から推薦され本学部への入学を強く希望する成績優秀者を対象として面接を行い、本学の建学の精神や教育の理念、本学部の教育の目標を理解し、薬学関連分野への貢献という目的意識に裏打ちされた継続的で能動的な学習意欲を有しているか、他者との良好な関係を構築するコミュニケーション能力を有しているかなどを評価します。

○公募制推薦入試

化学・数学・英語の適性検査を行い、入学後の修学に必要な最低限の基礎知識や考え方が定着しているかを評価します。面接では、本学の建学の精神や教育の理念、本学部の教育の目標を理解し、薬学関連分野への貢献という目的意識に裏打ちされた継続的で能動的な学習意欲を有しているか、他者との良好な関係を構築するコミュニケーション能力を有しているかなどを評価します。このほか、調査書や高等学校長の推薦書の記載内容に基づき、基礎学力や語学力が身についていること、向学心や実行力を有していることなどを確認します。

○社会人入試・編入学試験

化学・数学・英語の適性検査を行い、入学後の修学に必要な最低限の基礎知識や考え方が定着しているかを評価します。小論文では、自分の考え方を相手に明確に伝えることができる基本的な文章力と表現力を有しているか、論理的に表現する能力を有しているかについても評価します。面接では、本学の建学の精神や教育理念、本学部の教育目標を理解し、薬学関連分野への貢献という目的意識に裏打ちされた継続的で能動的な学習意欲を有しているか、他者との良好な関係を構築するコミュニケーション能力を有しているかなどを評価します。なお、編入学試験では、在籍学校の成績証明書に基づき、単位取得状況等本学部への出願資格を充足しているかについても審査します。

【薬学部カリキュラム・ポリシー（CP）】

薬学部は、心の温かい薬の専門家として、自他ともに高め合い、医療の最前線で他職種とともに患者や生活者の立場に立って人々の健康を守り、高い倫理観と豊かな人間性を持って地域はもとより広く社会に貢献する医療人の養成を目指している。この教育目標を実現するために薬学部では、以下の基本方針に基づいて、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を基盤とし、本学部が独自に設定した授業科目も組み入れた特色あるカリキュラム（教育課程）を編成している。

1. 薬剤師に必要なコミュニケーション能力を養うために、多くの実習並びに演習でスモールグループディスカッション（SGD）やPCを用いたプレゼンテーションを導入する。
2. 豊かな人間性と知性を養うために、人文科学・社会科学・自然科学を広く学べる教養教育科目を開講する。
3. 社会のグローバル化に対応した国際的感覚を養うために、多学年にわたる語学教育を行う。
4. 医療人である薬剤師としての意識を養うために、医療に関わる職種やその倫理性に関する事柄を取り上げ、SGD等を実施する科目を多学年にわたり開講する。
5. チーム医療の重要性を理解し、その遂行に必要な知識・技能・態度を修得するために、他の医療系学部と合同で参加型学習を行う。
6. 薬物療法における実践的能力を養うために、薬学の基礎から応用・臨床に関する医療薬学の知識・技能を順序立ててバランスよく修得できるように科目を配置する。
7. 研究課題を通して、新しいことを発見し、科学者としての目と心、問題解決能力の育成、それを生涯にわたって自他ともに高め続ける態度を養うために、複数学年にわたる卒業研究を行う。
8. 薬剤師として必要とされる総合的かつ実践的な知識・技能・態度を修得するために、臨床への参加・体験型学習による病院実習と薬局実習を行う。
9. 更に高度の専門知識を涵養するために、各学年で学んだ知識と体験を有機的に統合する演習科目のほか、薬学アドバンスト科目を開講する。

【薬学部ディプロマ・ポリシー（DP）】

本学は、建学以来、人間の環境に関わる教育と研究を実践している。その中であって薬学部は、心の温かい薬の専門家として、自他ともに高め合い、医療の最前線で他職種とともに患者や生活者の立場に立って人々の健康を守り、高い倫理観と豊かな人間性を持って地域はもとより広く社会に貢献する医療人の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 豊かな人間性と高い倫理観を有し、患者や生活者の立場に立って医療を遂行することができる。
2. 国内・国外を問わず、様々な立場の人々と協調的な人間関係を築くことができる。
3. チーム医療を適切に遂行するために必要な行動をとることができる。
4. 社会へ常に関心を抱き、地域はもとより広く社会に貢献する姿勢と実践的能力を有している。
5. 科学的根拠に基づいて論理的に考えることができる。
6. 薬学の基礎と臨床に関するバランスのとれた豊富で正確な専門知識・技能・技術を持ち、研究遂行に必要な意欲と問題解決能力を有している。
7. 薬物療法に関する高い実務能力を有している。
8. 薬学・医療の進歩に対応できるよう、生涯にわたって自他ともに高め合う意欲と態度を有している。

【薬学部の目的】

◆人材の養成に関する目的

心の温かい薬の専門家として、自他ともに高め合い、医療の最前線で他職種とともに患者や生活者の立場に立って人々の健康を守り、高い倫理観と豊かな人間性を持って地域はもとより広く社会に貢献する医療人の育成を目的とする。

◆教育研究上の目的

教育に関しては、高い倫理観、豊かな人間性、自他ともに高め合う態度、基礎薬学並びに医療薬学に関するバランスのとれた豊富で正確な知識・技術及び問題解決能力を育成し、チーム医療に資するためのコミュニケーション能力及び実践的能力を醸成する。

研究に関しては、基礎薬学並びに医療薬学に関する学術研究活動の推進を図り、地域はもとより広く社会に貢献する。